## [目的]

メシマコブ (Phellinus linteus)は、野生の桑の 木に寄生する真菌類-担子菌類-ハラタケ目-タバコウロコタケ科ーキコブタケ属のキノコである。 その培養菌糸体であるPL2、PL5は抗がん効果、 免疫賦活作用があるとされている。 今回、ELISPOT (Enzyme-Linked Immunospot) 法を用いて、その免疫力亢進効果を基礎的・臨床 的な面から検討した。

### [方法]

#### 〈基礎検討〉

(1)健常人2人の末梢血単核球(PBMC)にメシマコブ(韓国新薬製培養菌糸体 PL2、PL5の熱水抽出物により商品化されたメシマ®同一Lot)を使用して、 それを最終濃度50 $\mu$ g/ml、100 $\mu$ g/mlになるように添加して3日間培養し、 その後ELISPOT法にてIFN- $\gamma$ 産生細胞の有無を測定した。

#### 〈臨床検討〉

- (1)がん患者4人(①53歳女性乳がん、②69歳男性肺小細胞がん、③66歳男性肺腺がん、④61歳男性大腸がん)を被験者として、上記と同一のメシマコブを投与した(①は1日2g、その他は1日3g)。
- (2)メシマコブ服用前(Day0)および服用3か月後(Day90)にヘパリン採血を行い、 PBMCを分取した。
- (3) 基礎検討と同様の方法で、メシマコブ最終濃度25  $\mu$  g/ml、50  $\mu$  g/mlで3日間 培養し、その後ELISPOT法で測定した。

## [患者背景]

症例①M. Y. 53歳女性

2002年10月 乳がん(右)にて乳房温存手術施行(腋窩リンパ節転移) 2005年2月 メシマ®1日2g開始(ELISPOT検査実施)

症例②R. S. 69歳男性

2004年7月 肺がん(右下肺原発)・小細胞がん(食道浸潤)

12月まで化学療法、放射線療法

2005年2月 メシマ®1日3g開始(ELISPOT検査実施)

症例③N. Y. 66歳男性

2005年3月 肺がん(右上葉)・腺がん(転移認めず)

2005年4月 メシマ®1日3g開始(ELISPOT開始)

右肺上葉切除術施行

症例4R. S.61歳男性

2005年5月 大腸(S状結腸)がん

メシマ®1日3袋開始(ELISPOT開始)

2005年6月 腹腔鏡補助下S状結腸切除術

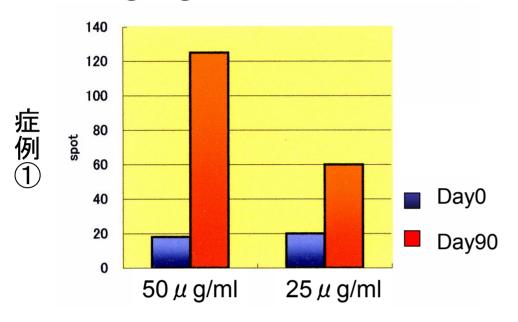
## [考察]

- ①〈基礎検討〉から、メシマコブ添加によりINF-γ産生細胞が増加することが確認され、CTL(細胞障害性Tリンパ球)が誘導されていることが示唆された。
- ②〈臨床検討〉から、スポット数の増加がみられた患者においては、メシマコブ服用により生体内でCTLが誘導された、もしくは誘導されやすい状態になっていることが示唆された。

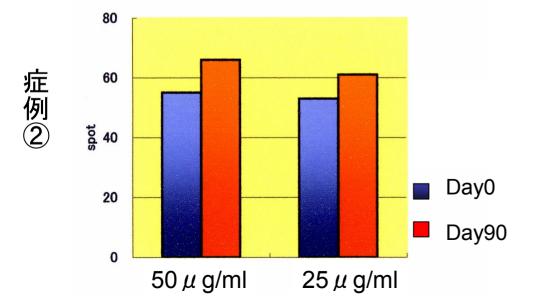
## [結語]

培養菌糸体PL2、PL5を含むメシマコブは CTL(細胞障害性Tリンパ球)の誘導を促進し、 免疫賦活効果を有することが示唆された。

#### 症例①、②におけるメシマコブ投与前後のSPOT数の変化

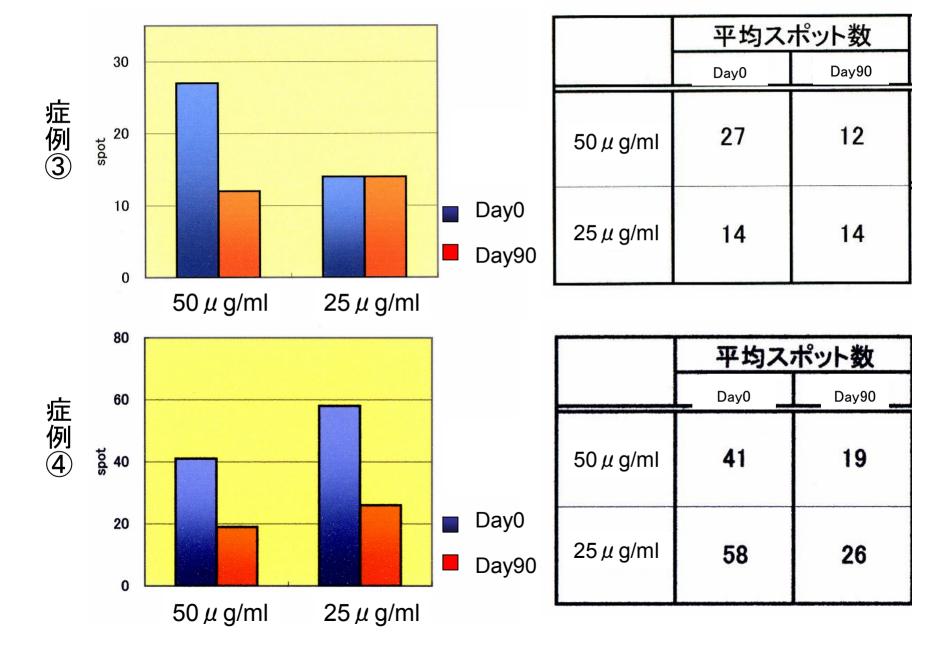


	平均スポット数	
	Day0	Day90
50 <i>μ</i> g/ml	18	125
25 μ g/ml	20	60

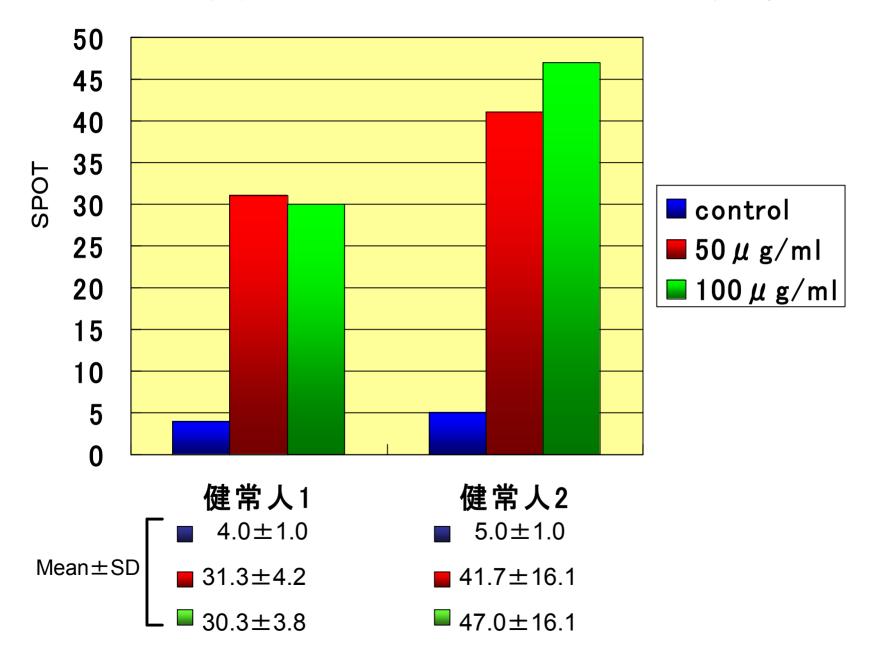


	平均スポット数	
	Day0	Day90
50 μ g/ml	55	66
25 μ g/ml	53	61

#### 症例③、④におけるメシマコブ投与前後のSPOT数の変化



#### 基礎検討におけるメシマコブによるSPOT数の変化



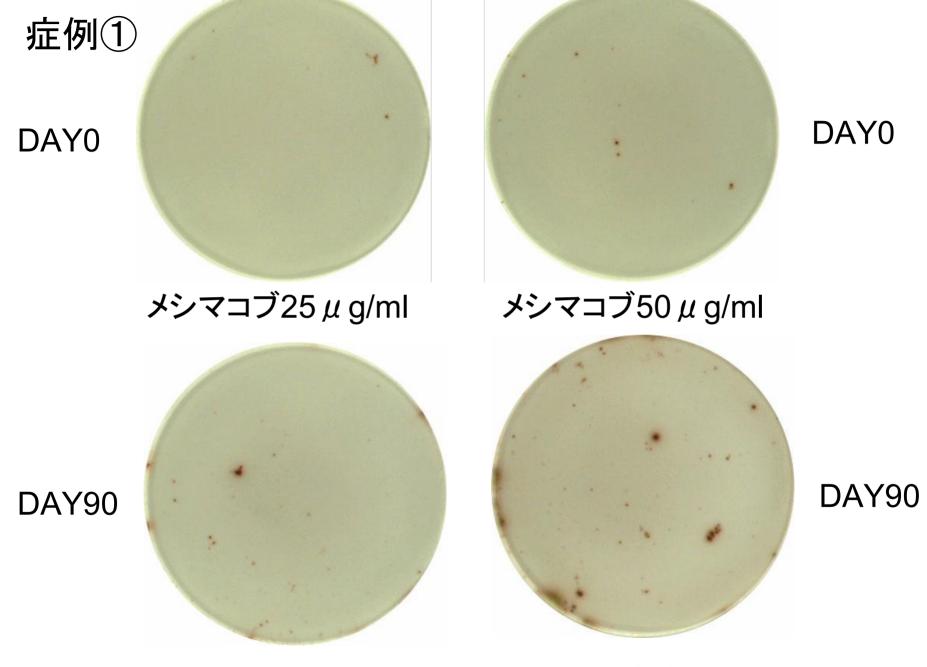


96-well microplate

**ELISPOT** reader



ELISPOT assay by IMUH Inc.



ELISPOT assay by IMUH Inc.

## メシマコブによる

医療法人仁善会田中クリニック1)

〇 田中 善1、渡部柳子2)

# 免疫力亢進の検討

、米国珠光会東京ラボ2)

、作田和子2)